

2019年度 支援サービスいずみ 事業報告

支援サービスいずみ

管理者 溝口吉郎

【事業目的】

介護保険法の理念に基づいた居宅介護支援のサービスを通して

- ① 住みなれた地域・在宅でのその人らしい生き生きとした生活の実現を目指します。
- ② 行政・医療・施設・居宅サービス事業者・地域包括支援センター・地域の資源を活用し、「利用者本位」「自立支援」「生活クラブ10の基本ケア」の視点に立ったサービスを提供します。
- ③ サービスを通して本人・家族の思いを実現します。

【事業活動報告】

- ① 利用者ニーズと家族のニーズを的確にとらえ、自立支援、重度化防止を目標に特定事業所として質の高いケアマネジメントを行います。

・地域包括ケア、生活クラブ10の基本ケアの視点を持ち、見つかった地域課題については地域包括支援センターと連携し、地域ケア会議開催を通して解決をめざします。

→今年度参加した地域ケア会議は1件（数回にわたり継続参加）。地域課題を話し合う会議ではなかった。

インフォーマルなサービス、地域資源を盛り込んだケアプラン作成は定着してきている。地域資源情報をミーティングで共有できていることも大きい。

- ② 法令を遵守し、個人情報保護に留意した情報提供及び情報開示、並びに説明責任を果たします。

・サービスの提供にあたっては計画について十分な説明を行い、利用者の理解と同意を得ていきます。

・法令・個人情報保護に関する研修の実施、マニュアルを整備し、職員の意識を高めます。

→毎回契約時、重要事項説明書変更時に説明している。

法定研修に基づき実施。居宅事業所が集まる分科会においてもプライバシーに関する研修があり、参加した。

- ③ 地域から信頼され、選択される取り組みを行います。

・事業所内で相互に点検を行い、業務内容を確認しあうことで、適切なプロセスに沿っているか確認する機会をつくります。

・専門研修・事業所内研修への参加及び自己研鑽を行うことにより、各々の専門性を高めます。

・職員会議（1/月）・ミーティング（1/週）、他法人、地域包括支援センターと共同の事例検討会（2/年）を実施し、情報の共有化・スキルの向上を図ります。

→ケアマネジメントサイクルを相互に確認する取組みは実施できず。管理者が介護保険ソフトにて状況を確認し、個別に状況を確認するにとどまった。

研修計画に沿って専門研修に参加。市内で開催される研修、23区内で開催されている事例検討会に参加し、伝達研修を行った。

2回/年他法人、地域包括支援センターとの事例検討会を開催（6・11月）。4事業所持ち回りで事例提供、進行を担った。地域包括支援センターの主任ケアマネージャーにも参加していただき、意見を頂くことができた。

ミーティングは毎週欠かさず実施。毎週質の向上に関する取組みを実施。1回/月は職員持ち回りで講師を務め、研修を実施した。

④ 地域包括ケアの視点に基づいたサービスを提供します。

・居宅分科会・圏域別事例検討会・ケアマネージャー交流会への参加、地域包括センターとの連携を通じて地域の情報収集に努めます。

・地域の活動への参加、地域の資源を活用する中で、不足している地域資源の発見に努めます。

→居宅分科会には毎回参加。人数制限のある会では指名職員が参加することもあった。

圏域別事例検討会には2名の職員が参加（1事業所2名までの制限あり）。

地域活動への参加、地域資源の活用する事に留まり、不足している地域資源の発見には至らず。今ある地域資源で解決できることも多かった。

⑤ 利用者が安心できる環境をつくります。

・法人内他事業所との連携を密に図ります。

・法人外事業所の情報を収集・共有し、適切な事業所選択を支援します。

→法人内事業所からの異動職員もあり、密な連携をもとに支援を提供することができた。

毎週のミーティングにて法人内事業所の情報についても共有した。

⑥ 生活における食を大切にします。

・疾病・生活スタイルに合わせた食事が取れるようサービスを調整します。

・食の専門家の力を活用して、おいしく食べ続ける事ができるよう、口腔機能の維持・向上に努めます。

→身体状況、生活状況に合わせた食支援が必要な利用者に対しては情報提供、QOLを主眼に置いた食支援を展開できた。

また、必要に応じてST、栄養士等の専門職の力を活かした支援を展開できた。

⑦ 相談の専門職集団としての力を法人に還元し、法人理念の実現をめざします。

・法人内研修での講師を担います。

→法人内研修では管理者が講師役を務めたこともあったが、ケアマネージャーとしての専門性を活かした研修ではなかった。

【事業実績】

① 月間請求ケアプラン数：160件

・各ケアマネージャーの目標担当件数を決め、責任を持って担当します。

→職員の退職もあり落ち込みを見せることがあった。月平均141件。

冬場には体調不良、転倒により入院を余儀なくされる方がおり、危険予測と体調を管理できるプラン作りに課題が残った。

【会議開催報告】

① 職員会議：1/月 ミーティング：1/週 の頻度で開催します。

・法令に関する情報の周知、地域・事業所・利用者情報の共有を目的として開催します。

→毎週欠かさず実施。法改正、今後起こりうる改正に関する議論の進捗についても共有した。

情報共有機会を持つことで個々の社会資源としての有用性は高められた。

② 事業所内事例検討会：2/年

- ・実際のケースを通じて相談技術の共有、ケアマネージャーとしての専門性の向上を図ります。
→計画に沿って実施。ミーティングでは話し合えない点まで時間をとることで話し合うことができた。

【委員会開催報告】

- ① ケース検討委員会：1/週 ケアプラン内容の検討、困難ケースの検討
→困難ケースについては毎週のミーティング内で時間をとって経過報告、今後の対応を検討することができた。
- ② 苦情対応委員会：1/2月 寄せられた苦情に対する対応と解決の進捗確認、防止策の検討
→2/年法人の事故苦情第三者委員会に参加。事業所内でも情報を共有。
ミーティングにおいても苦情について話し合う時間を持ち、今年度上がった苦情について原因とどうすればよかったのか。法人、事業所として取った対応について共有した。
- ③ 環境整備委員会：1/2月 事業所内外の環境整備・点検と必要物品の確認補充
→ミーティング内で不足している備品、事業所内の環境改善について話し合った。

【研修実施報告】

- ① 専門研修として基礎研修・更新研修に参加します。
 - ・介護支援専門員専門研修Ⅱ：溝口、池本
 - ・介護支援専門員専門研修Ⅰ：子島→予定通りに参加。来年度は平田：専門Ⅰ、子島：専門Ⅱを受講予定。
- ② ケアプラン研修・アセスメントに関する研修、認知症理解に関する研修、相談技術に関する研修に参加します。
*頻度・対象については別紙「支援サービスいずみ 年間研修計画」を参照
→研修計画を基にそれぞれ研修に参加

【その他の活動報告】

- ① パスレル保谷の一員としての活動
 - ・1月の運営協議会に参加する。
 - ・パスレル祭りへの参加（10月）
→溝口が祭りの実行委員長として企画・運営に参加。当日は溝口・池本が参加。

以上